

美しい海と建築を楽しむ シーサイドハウス

日本には美しい海に囲まれ、その眺望を我がものとするようなこだわり設計の別荘で、
プレシャスなシーサイドライフを満喫している方々がいます。
葉山、熱海、富津、宮古に建てられた理想の海の家、4軒を、まずは厳選してご紹介します。



葉山の「Villa Y/h」のLDKプラス、テラス。天井の高さや袖壁などにより、ひと続きの空間でありながら異なる景色を楽しめる設計に。

Photos : AKINOBU KAWABE(HAYAMA) ,
TAKESHI NAKASA[Nacasa & Partners] (ATAMI) ,
KOICHI TORIMURA(FUTTSU) ,
HIROSHI TANIGAWA[Tololo studio] (MIYAKO)
Text : MIHO KASHIWABARA

HAYAMA

敷地から一歩踏み出せば足元は砂浜、
数十歩先は波打ち際という敷地に立
つ「Y/h」。葉山でも特に恵まれ
た立地を生かした、端正な建築です。

ATAMI

熱海に建てられた真っ白な別荘「ヴ
ィラ海光町」。屋上のテラスは海の眺
めを楽しむ際に手すりも邪魔しない
よう取り外しのきくチェーンを採用。

FUTTSU

目の前に東京湾が広がり、背後は山
という豊かな環境を生かした富津の
別荘「ヴィラ・エスカルゴ」。景色に
集中するための設計がそこかしこ。

MIYAKO

伊良部島に建てられた「loves 385
(イラブサンハチゴ)」。ウイラから砂
浜へ直結する海は双葉の岩に守られ
た、小さな湾のようになっています。

A home by the Sea



1 エントランスからダイニングを望む景色。日中は青空が床に映り込み、内と外がグラデーションでつながります。2 遠く水平線まで視線が抜けるダイニングは、両側を壁にすることで、着席すると開放感とコージーな居心地よさ、両方が味わえるのが魅力。テーブルはカッシーナのもので伸長式。3 海側を全面開口とし、造作のバスタブを大きくしたバスルーム。バスタイムを、海と一体化するような非日常の時間に演出する空間に。4 地下1階から2階までの階段は、ステップの一部を片持ちに。移動しながらも景色を楽しめます。



AREA / HAYAMA

目の前は葉山の海と富士山。 絶景を独り占めする別邸

眼前に海のパノラマが広がる敷地に立つ「Villa Y/h」。
住み手のYさんに、海を楽しむライフスタイルを新たにもたらし
こととなった、シーサイドハウスをご紹介します。

Villa Y/h
設計／岡田哲史建築設計事務所

潮風を感じながら読書やコーヒー
を楽しむテラス。チェアは軽くて
動かしやすいデドン。見たい景色
に向け角度を調整しやすい利点が。



2



1



4



3

1 エントランスを抜けて見える日没のシーン。テラスに出れば雄大な富士山の夕景がさらに迫ります。2 暖炉の炎を眺めて寛ぐアウトドアリビング。テーブル、チェア、スツールはB&B Italia。3 リビングの天井には180インチの大型スクリーンをビルトイン。スピーカーを4つの天井埋め込み型と2台の床置きにして、本格的なシアタールームに。4 ドラマチックな日没の瞬間。その後、室内の照明を消してキャンドルの炎のみにすれば、月明かりが水面を照らすまで、約15分だけの変わりゆく景色を眺めるという特別な楽しみも。

海と山と、刻一刻と移り行く表情と共に暮らす贅沢

都内のマンションに暮らし、軽井沢に別荘を所有するYさんが、3つ目の拠点として建てたのが葉山の別邸。海に向かって扇形に広がる敷地は、玄関側の接道面と砂浜では高低差が9mほどあります。建築家の岡田哲史さんは、この敷地条件を生かし、目の前の絶景を建物というフレームでどのように切り取り、景色の魅力をいかに引き上げるかに注力して、3層構造の建物を完成させました。最も眺めのよい2階はLDK、1階をバスルームやプライベートルシアに。浜辺と直接行き来できる地下1階はキッチン付きのアウトドアリビングとゲストルームとなっています。どの空間からも海に向かって視線が抜け、朝、目覚めたときから就寝まで、多様に変化する景色を楽しめます。さらに、富士山を含め景色のよい部分だけを切り取るよう、LDKに奥行き約3mのテラスを設ける工夫も。この家だけの絶景を設計力で叶えました。実は建築家の岡田さんは、海のアクティビティとは無縁だったYさんに、海を積極的に楽しむことも提案したそう。今ではYさん、岡田さんと釣りやシーカヤックの話題で盛り上がるほどに。新たな拠点と共に、この土地ならではの楽しみを見つけたYさんです。